



### 旧中荻家住宅概要

- ❖ 建築年月日 明治44年5月11日
- ❖ 設計者 鈴木禎次
- ❖ 建築面積 229.00㎡
- ❖ 延床面積 321.93㎡
- ❖ 構造形式 木造2階建・スレート葺
- ❖ 指定年月日 昭和51年2月3日(文部省告示第13号)  
附指定 棟札1枚、設計図2幅



東面から見た建物外観



2階のハーフトインバー



漆喰壁とレンガの基礎

### 旧中荻家住宅

- ❖ 所在地 愛知県半田市天王町1丁目30番地の2
- ❖ アクセス 名鉄河和線「知多半田」駅から徒歩5分  
JR武豊線「半田」駅から徒歩10分



※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。  
※現在常時公開しておりません。  
見学については下記までお問い合わせください。

**半田市立博物館**  
所在地/〒475-0928 半田市桐ヶ丘4-209-1  
開館時間/午前10時～午後6時 TEL/0569-23-7173  
休館日/月曜日(祝日の場合は開館) FAX/0569-23-7174  
ただし翌日休館、年末年始 Eメール/hkbutsu@city.handa.lg.jp  
入館料/無料



## 重要文化財 旧中荻家住宅

半田市

## 重要文化財に指定されている 明治時代の貴重な洋風住宅

旧中荻家住宅は、明治44年(1911年)に第10代中荻半六が別荘として建てた洋風住宅です。

設計は、名古屋高等工業学校(現在の名古屋工業大学)教授の鈴木禎次によるものです。

中荻半六家は半田屈指の旧家の一つで、代々、海運業や醸造業を手広く商う豪商でした。

昭和25年(1950年)になると、第11代中荻半六が女性のための学び舎として「桐華洋裁学校」(現在の公益財団法人桐華学園 桐華家政専門学校)を設立し、この建物は、学校の本館として長く利用されることとなりました。

昭和51年(1976年)には、明治後期の洋風建築の様子がとてもよく残されていることなどが評価され、国の重要文化財に指定されています。

近年では、建物の一部がカフェとして利用されたこともありましたが、平成24年(2012年)、市民の貴重な財産として後世へ保存していくため、建物が半田市へ無償譲渡されました。その後、平成25年(2013年)から、老朽化した建物の保存修理が行われました。



桐華洋裁学校 初代校長  
第11代 中荻半六



昭和19年頃の様子



## 明治の様子を今に伝える文化財としての価値

旧中荃家住宅は建築当時からほとんど改変がなく、明治後期の状態がよく残っています。これは全国的にも貴重な事例であり、重要文化財として高く評価されている理由でもあります。

また、床材や壁紙など、今日では非常に希少なものがまとまった状態で残っていることも、この建物の価値を高めています。

### 旧中荃家住宅の価値

1. 建築当時と姿がほとんど変わっていない。
2. 設計が著名な建築家の鈴木禎次である。
3. 希少な材料や当時のガス灯などが残っている。

### 建築家 鈴木禎次

明治後期から昭和初期にかけて、名古屋を中心に活躍した著名な建築家です。夏目漱石の義弟としても知られています。

### 希少な材料・当時の設備



#### 天然スレート

屋根の瓦は、天然スレートです。粘板岩という自然石で、簡単に割ることができます。国内産は現在入手が難しい材料です。



#### 天然リノリウム

階段などの床材に使われている天然リノリウムは亜麻仁油を始め、石灰岩、コルク粉、ジュートなどの天然素材から作られています。これだけ多く残っているのは大変貴重です。



#### ガス灯

建物にはかつてのガス灯が残っています。半田は、明治43年(1910年)に電気よりも早くガス事業が始められた地域で、建設当時いち早く導入されたことがわかります。



東から見た庭と建物全景

### 配置図



### 庭に咲く100本の薔薇

ベランダの柱などには、「薔薇」の意匠が使われています。庭には、約100本の四季咲きの薔薇が植えられており、優雅な別荘の雰囲気彩りをそえます。

## 建物の見取図

### 2階



### 1階



## 後世へ保存継承するために…老朽化と保存修理

平成24年(2012年)当時、老朽化による雨漏りや破損が数多く見られ、文化財の保存状態としては大変深刻な状況にありました。



腐朽して崩れそうなベランダの手すり

このため、平成25年(2013年)から、貴重な文化財を後世に残していくための「保存修理」に着手することとなりました。

修理は平成28年(2016年)まで行われ、特に状態の悪い中央ベランダ部分の解体に始まり、屋根の全面葺替や木部の補修と塗装、基礎や壁面、煙突などの耐震構造補強など、破損の著しい箇所部分修理が慎重に進められました。

### 貴重な古材を残す「保存修理」

「保存修理」では貴重な古材をより多く残すため、使える部分はそのまま利用し、傷んだ部分だけを同じ材料を使って丁寧に修理します。例えば、屋根の葺替では、使われているスレートを一旦すべて取り外し、一枚ずつ再利用が可能かどうかを確認する作業が丁寧に進められました。



ベランダの柱・装飾



天然スレートの葺替